進捗報告書 （実行団体）

事業名: コロナ禍での新しい就労、配食支援事業

Version 1.2

資金分配団体: 公益財団法人長野県みらい基金

日付： 2021年9月2日

実行団体名: 特定非営利活動法人　白馬の風

実施時期: 2021年３月～2022年２月

事業対象地域: 白馬村

事業対象者:
・就労支援：何らかのコロナの影響を受けている介護者、介護保険の利用者、生活困窮者、障がい者
・受益者：コロナの影響で社会と孤立している方、生活困窮者、障がい者

Ⅰ．事業概要

事業概要
当法人で約９年間行っているデイサービスの利用者及びその家族、その他の在宅要介護者及びその家族のうち、新型コロナウイルス感染拡大の影響により外部就労が難しくなった方を対象に、配食事業スタッフとして雇用する就労支援を行う。また、生活困窮者への配食サービスを行う。困りごと支援体制の構築。

Ⅱ．進捗報告の概要

総括
４月より営業開始し、弁当容器で寒いときは暖かく、熱いときには保冷材で冷やして届けている。デイサービスでも好評の昼食を配食弁当に生かし、味も内容も手作り感いっぱいのお母ちゃんのお弁当といった感じで利用者からも非常な好評で、毎月少しずつ配食利用者が増えている。また、配達の際の会話を楽しみに待っている利用者も多い。また、お弁当につける「おしながき」も好評で、配達開始以来全部とっておいて見返している利用者もいる。また、メニューの中でいいと思ったものは参考にしているという利用者もいて、お弁当もおいしいと好評で、スタッフとの会話を楽しみにしている利用者も多い。

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態 ）	進捗状況
⑴就労者：コロナによる失業者が就労でき、収入がある。 ⑵利用者：配食によって買い物などの外出の頻度が減り、コロナ感染の心配が減り、安心して暮らせる。 ⑶就労者：コロナによる外出自粛で増加している家族の弱者（高齢者、子ども）に対する虐待を減らす。 ⑷配食スタッフが定期的に来訪することで孤立を防ぎ、その家族の困りごと（生活に必要な支援やDV被害など）への支援につながる。	⑴就労者：コロナによる失業者及び収入が激減した人、要介護の方とその介護者の人の就労、宿業をしていてコロナでお客様が激減した人などが就労している。就労者5人、謝金3人 ⑵利用者：コロナ感染防止策での利用もあり、４月から８月までの営業で利用者数は約130人、配食数は延べ2,000食弱の利用があった。助成期間終了までに利用者数150名・配食数5000食達成見込。 ⑶就労者：コロナによる外出自粛による孤立が防げて、就労することで話す機会と気分転換になるとの感想をもらっている。就労前はコロナになって一日一人で誰とも離さない日々だったが、週３日出かけて話せる場ができたことで規則正しい生活ができるようになり、生きがいができ、県外などで離れて暮らす家族も社会とかかわりを持てて安心しているとの事。 ⑷利用者の孤立及び困りごと：配達訪問することで、体調変化や生活変化などの状況を白馬村の包括支援センターと連絡を取り合いながら、多方面から支援できる体制になって来ている。実際高齢者独居宅への配達時、病院受診し熱中症だったとのこと、包括支援センターへ連絡しその後の様子など見てもらうよう依頼した。高齢者夫婦宅で高齢になってどちらかが倒れた時、子供もいないため看てくれる人がいづ、買い物など身の回りの世話をしてくれる人がいず生活が不安との相談があり、ケアハウスの話を包括支援センターに確認することを提案し、その後ケアハウスに入る手配となった。包括支援センターより見守りの家の登録依頼を受け、見守りの家となる。

活動	進捗状況	概要
１　店舗の賃貸借契約を締結し、調理器具などの整備を行う。白馬村、小谷村、他の飲食店、商工会、他の介護施設などとの連携を深める。	ほぼ計画通り	店舗賃貸契約を4月１日で締結し、４月２日より営業開始した。白馬村包括支援センター、白馬村社会福祉協議会、小谷フーズ、メディア配食サービス、白馬村商工会、白馬村デイサービス岳の湯、しろうまメディア、白嶺などと情報共有しながら、配食利用の方の安否確認など連絡を取り合っている。
２　弁当販売等の営業許可を保健所に申請し許可を得る、飲食店保険に加入するなど営業に必要な申請等を行う。	計画通り	３月３１日付で大町保健所より食品営業許可をもらい、損保ジャパンの飲食店保険に加入し４月２日より営業を開始。

３　就労希望者を募集し、就労支援を開始する。	ほぼ計画通り	４月２日より要介護の方とその介護者の方、孤立した独居高齢者の方の就労を開始している。
４　メニューづくり、配食案内チラシ作成および新聞折り込み、SNSによる案内。	ほぼ計画通り	配食案内チラシをラクスルにて作成し、関係機関に配布。新聞折込の代わりに白馬村社会福祉協議会より年４回の広報誌の７月号に特集として案内を掲載してもらい、白馬村の行政区に加入している全世帯に７月１９日より配布。その他、福祉施設にもチラシをおいてもらう。
５　営業開始(４月～、週３日、お盆、年末年始お休み）。	ほぼ計画通り	４月２日から月水金の昼と夕の配食を開始し、お盆休みは要望により休まず営業。
６　配食時に従事者や利用者及び家族の困りごと（支援ニーズ）を聞き取り、必要な支援に繋げられるよう地域や行政と連携して支援体制をつくる。	ほぼ計画通り	配食時従事者の困りごとを聞き包括支援センター及びケアマネージャーと連携し要介護者とその家族へのかかわりを持っていただけるようになった。現状は支援というよりかかわりを持つことで、DVやパワハラの予防に努めている。もう一名は独居高齢の女性で、施設に入所しているお姉さんのことで、デイサービスの相談員の立場から、専門の知識をもとに相談に乗っている状況。配食利用者は独居高齢者が多く、この８月熱中症で受診された日が丁度配達日で、その状況を村の包括支援センター職員に連絡し、様子を見てもらうよう連絡した。
７　調理、食材提供をしてくださる飲食店や農家の方との連携づくり	ほぼ計画通り	配食利用者の家や店舗近所の人から野菜やコメを提供してもらっている。

Ⅳ. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
（団体として、事業実施後（1年以降）に目標とする状態への指標等を設定している場合、ご記載下さい） 白馬村、小谷村において、本事業を継続し生活困窮者の継続就労および配食サービスの継続による困りごと支援体制の構築によって、関わるすべての人が安心安全で幸せを感じて生活できるようになるために、配食先のお宅を中心にその近所の方も巻き込んで、安心安全な地域にしていくため、４～５人での活動が各地区でできるよう、利用者とのコミュニケーションをとりつつ、つながれる機会を模索中。また、包括支援センターや民生委員との連絡も密に取り、地域の困りごとを聞いて、いろいろなかかわり（認知症による徘徊者、精神疾患により就労できない人への就労支援など）を作っていくことで、家族も地域もかかわる人が増え、周囲の人も安心して生活できるような地域にしていくために活動中。

Ⅴ．インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥364,814	¥4,476,152	¥4,840,966	¥1,743,354	36%
	管理的経費	¥0	¥45,881	¥45,881	¥0	0%
合計		¥364,814	¥4,522,033	¥4,886,847	¥1,743,354	36%

補足説明	自己資金との関係で、人件費の約６０万円の法人立替分が助成金口座から振り替えられていないため執行率が低くなっています。

Ⅵ. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
就労者が高齢なため身体的な問題が出てくる可能性があるため、作業内容や就労時間を検討し、就労者のモチベーションとかかわりを保ちながら、作業内容の調整、就労時間の調整など検討中。

Ⅶ. その他

自由記述

Ⅷ. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）		白馬村社会福祉協議会広報誌「そ・ら・ら１３６号」特集で掲載
広報制作物等		チラシ、社会福祉協議会広報誌
報告書等		

Ⅸ. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。		